

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170901271	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	社会福祉法人若竹大寿会		
事業所名	グループホームわかたけ小机		
所在地	(222-0036) 横浜市港北区鳥山町1031		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしく輝いて暮らせるホームをめざす」という理念のもと、「マズローの5段階欲求」に照らし合わせながら、ご入居者一人一人の欲求を満たすことができるように支援している。ご入居者が、持っている力を十分に発揮し、意思を尊重され、輝いて暮らすことができる為にも、ご家族様との情報共有は必須であり、ご面会時や家族会で密にコミュニケーションを取っている。理念に沿ってケアをケアを継続する事で、行動障害が軽減していき、穏やかに生活できるようになっていくプロセスを経験することで、職員もやりがいや喜びを感じ、前向きに取り組む姿勢が生まれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年12月9日	評価機関 評価決定日	平成24年5月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所はJR横浜線の小机駅から徒歩5～6分、周りに畑や倉庫などがあり静かな環境にある。木造平屋の建物の中心に玄関がある。床暖房が備えられているリビングの周りに居室があり、部屋を出ると皆が集える造りになっている。社会福祉法人・若竹大寿会のもとに、先に設立した「わかたけ西菅田グループホーム」と連携し、マズローの欲求5段階説に基づいた考え方で、職員、利用者、家族と一体の精神で介護に取り組んでいる。 【理念に基づいた運営】 理念「自分らしく輝いて暮らすためのホーム」をすべての中心に考えている。介護計画を心のケア(精神面)とADL表(身体面)の二つに分けている。随時カンファレンスを行ない、職員の意見を介護計画に取り入れ、実現出来るように努力している。利用者が自分らしく暮らせるように、以前の習慣を大事にしている。過去に血洗いの仕事をしていて、この事業所でも行っている方、週刊誌を毎週買いに行き、政治の記事に目を輝かせている方など、利用者それぞれが生き生きと生活出来るよう、支援をしている。 【家族との関係】 家族がセンター方式のアセスメント(5枚)に記入し、それを基に利用者を把握するように努めている。この取り組みが、家族にとっても、利用者を理解する契機になっている。毎月、家族会を開催していることもあり家族の係わりが深い。 【災害対策】 消防署の指導のもとに防災訓練を行う他、毎月1回、夜間想定も含め、自主避難訓練を利用者と一緒に行なっている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1～14	1～7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームわかたけ小机
ユニット名	太陽ユニット

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた質の高い認知症ケアをめざし、全職員が努力している。	法人が西菅田グループホーム開所時に考えた理念「自分らしく輝いて暮らせるホームをめざします」を継承し、事務所と玄関に掲示しており、職員は常にこの理念を基としたケアを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーなど、日々交流をはかっている。 だが、まだまだつながりを深めていくことができると感じている。	鳥山町内会に加入し、地域の情報を回覧板などから得て、防災訓練には管理者が、夏祭りには利用者が参加している。紙芝居や日舞、クラリネットのボランティアが来所している。中学生の福祉体験学習も受け入れている。商店街に買い物や散歩に行った折には地域の人と挨拶を交わしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話でのご相談などもあり、その都度支援させて頂いている。見学も随時受け付けている。 もっと積極的に地域貢献に努めていかなければならないと感じている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。 いただいたご意見を基に、ボランティアに来て頂く等、活かしている。	運営推進会議を3カ月ごとに開催し、利用者の家族、地域の代表として前自治会長、地域包括支援センター担当者と事業所職員が参加している。事業所の現況報告のほか、事故、ヒヤリハットの内容や看取り、医療連携などについて意見交換をしている。	運営推進会議において地域情報を得るために、民生委員に参加を働きかけることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今以上に、協力関係を築く必要があると感じる。	港北区の区役所には運営推進会議の議事録を提出し、生活保護受給中の利用者については、担当課と連携している。港北、都築区グループホーム連絡会の研修会や交換研修に参加して情報交換を行っている。また地域の方達にも認知症ケアについて理解してもらえるように、管理者が自治会や婦人会の会合に出かけて話をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>夜間に関しては、玄関の施錠を行っている。</p>	<p>「身体拘束をしないケア」の研修で、職員全員に周知させ実践している。ベッドからの転落に対しては、ベッドの下の床にじゅうたんを敷いたり、ベッドに代えて布団にしたりして、拘束をしないで済むように工夫している。玄関は日中、施錠していない。リビング、居室の掃出し窓も施錠せず、自由に庭に出られるようにしている。外に出ようとする利用者にはホームの周りを一回りしてもらったり、職員が付き添い、散歩したりしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>資料を配布する等し、職員の意識を高めている。</p> <p>また、虐待発見時の報告先なども明確にしている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全スタッフが制度の理解ができるように、まだまだ取り組んでいく必要があると感じる。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご入居者やご家族様にご理解できるよう、お伝えしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎年の外部評価では沢山のご意見をいただき、頂いた意見を改善につなげている。</p> <p>家族会などでも、ご要望を引き出せるように努めている。</p>	<p>毎月、ユニットごとに行なっている家族会や家族の訪問時に意見を聞いています。医療についての相談や、ケアプランへの要望を受けた際には、理念に添っているかどうかを職員と話し合い、ケアプランに取り入れ、実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを多くもち、カンファレンスなどで意見・提案を検討する機会を持っている。	管理者は、職員がユニット会議や月1回のリーダー会議で意見を言いやすいように配慮し、また職員から個別に話を聞くように努めている。職員から、利用者の外出の機会を増やしたいとの要望を受け、企画書を提出させ、取り入れている。職員の休憩時間の取り方について意見があり、時差をつけて取ることで解決した例もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と話をする機会もあり、意見・提案を伝えることはできている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修も充実している。半年に1度の人事考課では個々に適した目標を立て取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内での交流は設けている。他法人との交流の機会をもっと設けていきたいと感じている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、新しい環境に慣れて頂く為のプラン作りから開始している。更なる、努力は必要だと感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いに耳を傾け、また、話をできる機会を多く持つように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時やご相談があった際には、グループホームだけではなく、他のサービスも含めてご説明させて頂いている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活での関わりの中で、ご入居者を尊敬する存在として支援させて頂いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族様も支援者の一人である」ということを、契約時にもご説明させて頂き、その時必要な協力をいただいている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご友人の訪問やご自宅への外出など、ご家族様にも協力を頂きながら、支援している。	毎月、家族会があり、また普段から家族の面会が多い。利用者の高校時代の友人が訪ねて来ることもある。面会時には和室や居室でお茶を出すなど、楽しく過ごしてもらっている。以前は、馴染みの美容院に行く人もいた。手紙を出したり、電話を取り次ぐなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状により、他者とのコミュニケーションが難しい方もいらっしゃるが、職員が仲介しながら交流をはかっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方へは、情報提供を行うなど、取り組んでいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にご入居者本位の視点で検討している。日々の暮らしの中で、変化していく思いや希望に気づき、解釈し、カンファレンスを通じ職員で共有している。	入居時に家族にセンター方式のアセスメントを書いてもらい、意向や思いの把握に努めている。また日常の会話の中から思いを汲み取り、実現できるように取り組んでいる。意向の表現が困難な利用者については声掛けをしたり、日々の小さなサインを見逃さないように「気づきを書くシート」に利用者の様子を記入して職員で共有している。音楽に興味を持つ人には、皆で歌を歌う時に参加してもらっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を頂き、これまでの生活の情報を収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録・アセスメントシートなどからできることに気づけるよう、また、職員間で共有できるようにカンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>更に、話し合いを行いながら、現状にあった計画・実施ができるよう努力していく。</p>	<p>介護計画書は法人の理念に基づいて、独自の様式を使用している。介護計画は「私が自分らしく輝いて暮らす」ことを目標に、心のケア(精神面)とADL表(身体面)の2つに分けて、具体的ケア方法について職員が話し合い、最終的に計画作成担当者が作成している。</p> <p>「自分らしく輝くためのケアプランアセスメント」に毎日、気づいたことを記入している。カンファレンスは職員全員の意見を聞くため、何回にも分けて行ない、全職員の意見をすり合わせ、見直しをしている。全体的な見直しは3カ月に一度を目安に行っているが、それ以外でも、随時見直しをしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の気づきを記録に残し(アセスメントシート)ケアプランの評価につなげている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>できる限り時々に対応したサービスを行うように努めているが、更に柔軟な対応が求められていると思う。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会より夏祭りに招待して頂き、ご入居者も喜ばれていた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人・ご家族様の意向を伺いながら、かかりつけ医への受診、往診ができています。両者での情報交換を行っている。</p>	<p>利用者はそれぞれのかかりつけ医を受診している。希望者には「わかたけプラザクリニック」や片倉町にある内科クリニックから月2回の往診がある。</p> <p>歯科医が随時、治療、口腔ケアのために来所している。看護師による週1回の健康チェックがあり、その結果をそれぞれのかかりつけ医に報告、相談をしている。体調の悪い時には24時間連携の看護師に電話で相談し、各利用者のかかりつけ医に連絡している。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>時には電話連絡・相談を行いながら、ご入居者の健康管理に努めている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、情報提供（薬情・ADL・既往歴など）を行うなど、努めている。</p> <p>今後は、医療機関との更なる連携が求められている。</p>	/	/
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>往診医やNSとも連携を取りながら、ご家族様との話し合いを行っている。</p> <p>更なる連携は必要となってくると思われる。</p>	<p>「重度化・終末期対応指針」を基に、入居時には、状況によってはターミナルケアを行うことを家族に説明し、同意を得ている。食事が取れなくなった時には各利用者のかかりつけ医、看護師、家族と相談し、方針を決めている。過去、3例の看取りをしている。看取りに関する職員の不安を取り除くため、往診医による研修があり「呼吸の状態が判断のポイント」など具体的な指導を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	充分ではない。 全職員が実践できるように、研修を充実させていく必要がある。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	的的な訓練を行えている。	年1回、消防署の指導のもとに防災訓練を実施している。また毎月1回、夜間想定も含め、職員が対応する自主避難訓練を利用者と一緒に行なっている。地域の防災訓練には管理者が参加し、地域との連携を深めている。 3月11日の震災後、備蓄品を見直し、飲料水や懐中電灯、乾電池などを増やしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意識し、対応している。 ご本人様に不快な想いをさせてしまった時は、ケアを振り返りながら改善している。	利用者を尊重した声掛けなど接遇の研修を受け、失礼のない、丁寧な言葉を使うようにしている。利用者の呼び方は、入居前に使われていた呼称など、家族と相談して決めている。気になる呼び方があった場合には、職員全員で話し合い、改めるようにしている。 個人情報に関する書類は施錠できる書棚に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者がリラックスした状況の中で、言語表現・表情・ジェスチャーなどで表現できるように働きかけている。 より表出の可能性を広げていく努力をしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはなく、出勤している職員で連携を取りながら、極力一人一人のペースで生活できるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力の下、その人らしい季節にあった身だしなみを支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることを見極め、場面作りを含めて、力が発揮できるように支援している。	利用者の好みを聞き、メニューは毎日その日に決めている。食材の一部は宅配業者を利用しているが、大部分は利用者と一緒にスーパーに買いに行っている。利用者は野菜を切ったり、下ごしらえを手伝ったり、下膳、皿洗い、お鍋拭きをしたりしている。職員は見守り介助をしながら、一緒に同じ食事をしている。昼食の介助のため来訪する家族もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を把握する書式があり、個々に応じて使用し、把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行えていない事もある。今後の課題とも言える。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表からアセスメントを行い、トイレへのご案内のタイミングを検討している。	利用者それぞれの排泄チェック表によりパターンを把握しており、定期的に声掛け誘導するほか、立ち上がったたり、そわそわするなどのサインを見逃さず、トイレに案内している。リハビリパンツや布パンツを使用している方は常時、紙おむつを使用している方も体調を見ながら、トイレで排泄するよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員が意識し、取り組んでいる。食事や水分で自然に排便できるように、往診医・NSとも連携を取っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	決まった入浴日はなく、いつでも入浴できるように、準備を整えている。	入居前の習慣を大事にしており、寝る前に入っていた人は食後に、さっぱりしてから食事したい人は食事前にと、その方に応じて入浴時間を調整している。また毎日入浴する人、1日おきの人など、入浴回数も希望に沿うようにしている。入浴時には、会話を大事にしている。季節のユズ湯、菖蒲湯、沐浴剤を入れたお湯など、楽しく入れるような工夫もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況をみながら、声かけ・促しをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々観察しながら、往診医・NSへ状況の変化を報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や今までの習慣や趣味などの情報を収集しながら、更に輝いて生活できるように支援していく必要があると思われる。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物や季節行事（初詣出やお花見）は実施しているが、ニーズに添った外出はあまり出来ていない。</p>	<p>天気の良い日には毎日、ホーム周辺の散歩をしたり、買い物に車でスーパーに出かけたりしている。週1回、近くのコンビニエンスストアに週刊誌を買いに行く人もいる。地元の八幡様や鴨居方面へ神社の初詣に出かけたり、季節感を味わえるように、桜の花見や紅葉狩りに出かけたりしている。近くのファミリーレストランで外食もしている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の想いも含め、一人一人に合った支援を行っている（2名のかたが、現金の自己管理をされている）。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>お部屋に電話を引いている方が1名。 ご希望があった際には、ご家族様の思いも考慮しながら電話をかける支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、9名の方のご要望を全て受け入れることは出来ないが、季節感に配慮するなど居心地の良い空間作りに努めている。	各居室をリビング、ダイニングを中心に配置してあるので皆がすぐに集まれ、また職員が見守りやすい造りになっている。掘りコタツがある和室では来所した家族と一緒に過ごすこともできる。リビングにはテレビの前の大きなソファや、分けて置かれたテーブルがあり、レクリエーションや作業をするなどして、日中の大半はここで過ごしている。エアコン、床暖房のほか、大きな濡れタオルを干して加湿にも配慮し、快適に過ごせるようにしている。クリスマスツリーや利用者が作った貼り絵などが飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、ご入居者が思い思いに過ごせるように、職員が介入している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたベッドや布団、タンスや座椅子などを持ってきて頂き、少しでも馴染みの物に囲まれ居心地良く過ごして頂けるようにご家族にも協力して頂いている。	居室の掃き出し窓が大きいので、外の景色が眺められ、採光も十分に明るい。エアコン、クローゼット、洗面台が備付けられている。利用者はベッド、机、いす、タンス、仏壇など馴染みのものを置いている。壁が硬いため、直接は貼れないので、ハンガーネットを利用して家族の写真や色紙、造花などを飾り、自分の部屋として居心地よく過ごせるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間でカンファレンスを行い、安全に生活できるような環境作りに努めている。自立支援の面では更に検討が必要と思われる。		

平成 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170901271	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	社会福祉法人若竹大寿会		
事業所名	グループホームわかたけ小机		
所在地	(222-0036) 横浜市港北区鳥山町1031		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしく輝いて暮らせるホームをめざす」という理念のもと、「マズローの5段階欲求」に照らし合わせながら、ご入居者一人一人の欲求を満たすことができるように支援している。ご入居者が、持っている力を十分に発揮し、意思を尊重され、輝いて暮らすことができる為にも、ご家族様との情報共有は必須であり、ご面会時や家族会で密にコミュニケーションを取っている。
理念に沿ってケアをケアを継続する事で、行動障害が軽減していき、穏やかに生活できるようになっていくプロセスを経験することで、職員もやりがいや喜びを感じ、前向きに取り組む姿勢が生まれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームわかたけ小机
ユニット名	月ユニット

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」を常に目の届く場所に開示しており、日々のケアも「理念」に添っていけるよう、カンファレンスしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、防災訓練などにも参加している。 地域の商店にご入居者と一緒に買い物に出かけている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からのご入居の相談の際などにも、認知症についての説明をさせて頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いたご意見をスタッフで共有し、改善や取組みとして活かしている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会に来て下さる港北区役所の方と、情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	法人全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	全ての職員に、「高齢者虐待について」の資料を配付し、また、発見時の連絡場所についても記載されている。		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	職員が、いつでも閲覧できるように資料をファイルしている。		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	事前の説明（重要事項説明書）の際と契約時（契約書）にご説明させて頂き、ご理解を頂いている。		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関にも「苦情相談窓口」を掲示している。 また、家族会やご面会時にはご要望を言って頂けるように、日日の関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの場や、個別にも意見や提案を言いやすい環境にあるため、多くの意見を出せている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度の人事考課面接や、契約更新時に日々の振り返りや目標設定について話をする機会がある。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課シートで把握し、段階に合わせた研修を法人全体でも行っている。また、OJTでの学びがある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム交換研修に取り組んでいる。(グループホーム連絡会) 法人内研修などでも、交流が持てる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前にホームに足を運んで頂き、雰囲気を知って頂く茎会を設けている。また、事前の面談の際にも、お話を聞く機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族支援も大切な役割であることを意識し、思いを話して頂けるように、コミュニケーションに取り組んでいる。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学にいらした際に、ご本人・ご家族様の状況や思いを伺いながら、「ホームでは何ができるのか」ということを考え、提案している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者に力を発揮して頂く場面を大切にしており、共に支えあいながら生活を楽しんでいけるよう支援している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に、ご入居者の生活を支えていくという思いのもと、支援している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者にとっての「馴染みの場所や人」がどこなのかということ、ご家族様の協力も頂き、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の相性に合わせ、関わり、助け合いの場面を作っている。自発的関わりの少ない人でも、場面づくりによっては笑顔を引き出している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後もいつでもご相談できることをお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で発せられるメッセージを汲み取り、ケアに活かしている。アセスメントを積み重ねることで、想いを知る努力をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のご家族からの情報収集を始め、ご家族とのコミュニケーションの中から、情報を頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察やバイタル測定などを行いながら、変化を見逃さないように努めている。ケアプランに添って、力の発揮をして頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	本人から送られているサインを見逃さず、想いをスタッフで共有し、ご家族とも一緒にプランを作成するという姿勢を大切にしている。		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	日々の様子は個別の経過記録にのこし、気づきやアセスメントはアセスメントシートに起こし、共有している。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	法人のネットワークを活かし、今後は多機能化に取り組んでいかなければいけないと考える。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	まだまだ、把握できていない。今後更なる地域との協力体制を整える必要がある。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入所前からのかかりつけ医に継続して通う方もいる。ご要望に応じては、往診医についての情報提供もさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師と24時間の連携が取れるようになっている。</p> <p>また、訪問にあわせて変化を伝えられるようにしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報を提供している。必要であれば、病院に出向き話をする場を設けている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「重度化終末期ケアの指針」を設け、共有している。</p> <p>更に、個別での話し合いが必要だと感じている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを整備し、備えている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な訓練を実施している。地域とも協定を結び、取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者へは敬意を払い、スタッフ間でも言葉使いを確認しながら、お互いに注意し合える環境である。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面でご入居者自身が選択できるようなこえかけを行っている。 自発的な意志の表出が難しい方に関しても、意識的にサインを見逃さないように支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは決まっておらず、個々の生活リズムに合わせて生活していただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えられるよう声かけをするなど、いつまでも輝いていられるように支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー決めから片づけまで、個々の力を発揮して頂けるよう、出来ることを一緒に行えるように関わりを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取状況を把握出来る様、記録に残し、NSへも報告しながら支援している。</p> <p>個々の好みや形態に合わせて提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>実施はしているが、更なる充実が必要と考える。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄状況を記録し、排泄のサインをスタッフ間でアセスメントする事で、トイレでの排泄に向けて支援している</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>乳製品や果物などを個々にあわせて提供したり、お腹のマッサージなどを実施している</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>今までの生活習慣を継続出来るよう、時間や曜日を固定せずにご案内している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲れた時には休めるように、サインに気づけるよう努めている。日中の活動と休息のバランスを考え、夜間の安眠につながるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や目的などが把握しやすいように、ファイリングしている。NS共連携をとりながら、観察ポイント等指導を頂いている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からも情報を収集し、日々の生活の中で持てる力を発揮して頂けるように、メリハリのある生活が送れるように支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、希望に添えるよう職員が付き添いでかけている。地域との連携・協力は今後の課題でもある。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自身で管理している方もおり、置き場所がわからなくならないように、サポートしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を聞きながら、状況を見極め、電話での会話が楽しめるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望に全て添える事はできないが、音や光に関しては認知症の方が混乱しないように意識している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人目を気にせずくつろげるスペースとして、和室の工夫を検討していく		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力を頂きながら、馴染みの家具や写真などを持ってきて頂き、ご自分の居場所を感じて頂きやすいよう支援している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場などが分かりやすいように表示してある。 また、家具を点在させ掴まって歩くことができるように配慮している。		